

- 問1 日本の食料供給における豚肉の市場動向を分析する際、統計資料から読み取れる状況とその背景の組み合わせとして正しいものはどれですか。
(2015年 兵庫県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 国内生産量が停滞し輸入量が増加している状況に対し、消費者は国産品の安全性を評価し、価格にかかわらず国産品を重視する傾向にある。 | 2. 意識調査において「国産品にこだわらない」とする回答が過半数を超えている状況に対し、輸入量を制限して国内生産量を無理に増やしている。 | 3. 国内生産量が輸入量を大きく引き離している状況に対し、消費者は品質よりも価格を重視するようになり、安価な国産品の開発が進んでいる。 | 4. 輸入量が減少傾向にある状況に対し、消費者は国産品よりも安価な輸入品を求める傾向が強まり、国内生産が追い付かなくなっている。 |
|--|--|---|--|
- 問2 1970年代から2015年にかけての日本の漁業生産量の推移において、全体の漁獲量が減少傾向にある中で、人工的な施設を用いて魚介類を成長させてから収穫し、長年にわたってほぼ一定の生産量を維持している漁業の種類を選びなさい。
(2019年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 沿岸漁業 | 2. 沖合漁業 | 3. 遠洋漁業 | 4. 養殖業 |
|---------|---------|---------|--------|
- 問3 日本の主要穀物である米の収穫量において、新潟県に次いで第2位の収穫量を誇る北海道の稲作に関する説明として、最も適切なものはどれですか。
(2016年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------|
| 1. 温暖な気候を利用して年に2回米を作る二期作が行われている | 2. 広大な土地を活用した大規模な機械化農業が行われている | 3. 山がちな地形を活かした棚田での栽培が収穫量の大半を占める | 4. 都市部への出荷を目的とした施設園芸農業が中心である |
|---------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------|
- 問4 大阪府や兵庫県を中心とする阪神工業地帯の大きな特徴として、東大阪市などの地域に代表される工場の形態について述べたものを選んでください。
(2023年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|--|-------------------------------|
| 1. 広大な敷地を利用した大規模な自動車組み立て工場が集中している。 | 2. 国営の製鉄所を核とした重厚長大な産業が生産のほぼ全てを占める。 | 3. 内陸部の高速道路沿いに、IC（集積回路）などの先端技術工場が集積している。 | 4. 高い技術力を持つ中小規模の工場が数多く集まっている。 |
|------------------------------------|------------------------------------|--|-------------------------------|
- 問5 世界の資源供給において、レアメタルが抱える課題や特徴についての説明として、正しいものはどれか。
(2025年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 埋蔵地域が世界中に広く分散しているため、特定の国に頼らずどの地域からも安定して安価に輸入することができる。 | 2. 特定の国や地域に産出が偏っているため、産出国の政治情勢や輸出政策の変化によって、供給不足や価格高騰が起こりやすい。 | 3. 鉄や銅などのベースメタルと比較して、一度の採掘で大量かつ容易に確保できるため、国際市場における取引価格の変動がほとんど起こらない。 | 4. 他の金属に比べてリサイクルが極めて容易であるため、都市鉱山からの回収だけで、すでに日本国内の需要のすべてを賄うことが可能となっている。 |
|--|--|--|--|
- 問6 日本の漁業は、かつての「獲る漁業」から、人工的な管理を行う「育てる漁業」へとその比重を移しています。海や池にいけすやいかだを設置し、卵や稚魚から出荷に適した大きさに成長するまで一貫して人工的に管理する漁業の名称を選択してください。
(2019年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 沖合漁業 | 2. 栽培漁業 | 3. 遠洋漁業 | 4. 養殖業 |
|---------|---------|---------|--------|
- 問7 エネルギー自給率が約8.3%にとどまっている日本において、将来の重要なエネルギー資源として注目されている「メタンハイドレート」に関する説明として正しいものはどれですか。
(2020年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. アメリカや中国からの輸入に頼ることで、日本のエネルギー自給率を安定させるための新しい燃料である。 | 2. 二酸化炭素の排出を大幅に削減できるため、主に輸出用資源としてオーストラリアへ送ることが検討されている。 | 3. 日本国内の山間部で大量に採掘されており、既に日本のエネルギー自給率を大幅に引き上げている。 | 4. 日本周辺の海域に存在が確認されており、実用化によって日本のエネルギー自給率を高めることが期待されている。 |
|---|--|--|---|
- 問8 2008年から2015年にかけての日本における出入国管理に関する統計では、日本人の出国者数が1500万人前後でほぼ横ばいで推移する一方で、外国人の入国者数は2012年頃から急激な増加に転じ、2015年には約2000万人に達しました。この状況について述べた文として、正しいものはどれですか。
(2018年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 外国人入国者数は2008年以降、世界情勢に関わらず毎年一定の割合で増加し続けている。 | 2. 外国人入国者数に大きな変化は見られないが、日本人の海外旅行離れによって入国者数が相対的に多くなった。 | 3. 日本人の出国者数が毎年一貫して増加し続けており、外国人入国者数を常に引き離している。 | 4. 外国人入国者数が急増した結果、2015年頃には日本人の出国者数を上回る状況となった。 |
|---|---|---|---|
- 問9 関東地方から東海、近畿、瀬戸内を経て九州北部に至る太平洋および瀬戸内海沿岸には、日本の主要な工業地帯や工業地域が帯状に集中して分布しています。この地帯を何と呼びますか。
(2026年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|------------|-----------|
| 1. 京葉工業地域 | 2. 中央構造線 | 3. シリコンロード | 4. 太平洋ベルト |
|-----------|----------|------------|-----------|
- 問10 鹿児島空港や熊本空港の統計データによると、入国者の大半を韓国、香港、台湾などの出身者が占めています。例えば、鹿児島空港における香港からの入国者割合（41.8%）や、熊本空港における韓国からの入国者割合（58.6%）は、全国平均と比較しても非常に高い数値です。これらの空港に見られる特徴的な状況の説明として正しいものを選びなさい。
(2019年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 国際定期便のほとんどが貨物輸送に特化しており、観光目的の旅客による入国者の割合は極めて低い。 | 2. 近年はアジア圏との結びつきが弱まっており、代わってオセアニア地域からの入国者が最も多い割合を占めている。 | 3. アメリカやヨーロッパなどの遠方から入国した人の割合が大きく、世界規模の国際ハブ空港として機能している。 | 4. 近隣のアジアの国や地域と国際線で結ばれ、そこからの入国者が全国平均より高い割合を示している。 |
|---|---|--|---|
- 問11 ある地方の町における年齢別の人口構成を調査したところ、15歳から64歳の人口の割合が51.8%であり、全国平均の65.9%や東京都の70.0%を大きく下回っていました。この統計から読み取れる、この町の人口構成に関する課題として正しいものはどれですか。
(2023年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| 1. 全国平均に比べて働く世代が多く、地域の税収が安定している。 | 2. 労働力の中心となる世代が少なく、高齢化が進んでいる。 | 3. 若年層の流入が激しく、学校の教室不足が深刻化している。 | 4. 乳幼児の割合が非常に高く、保育所の増設が求められている。 |
|----------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
- 問12 「育てる漁業」には、大きく分けて「養殖漁業」と「栽培漁業」の2つの方法があります。このうち、養殖漁業と比較した場合の、栽培漁業の仕組みを説明した文として正しいものはどれですか。
(2021年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--|---|
| 1. 人工的に育てた稚魚を一度自然の海へ放流し、成長したものを再び漁獲する仕組み。 | 2. 外国の排他的経済水域内で、入漁料を支払って操業し、魚を育てる仕組み。 | 3. 大型の漁船を使って、日本の周辺海域で数日間にわたって魚を追い、網で捕らえる仕組み。 | 4. 海岸付近に防波堤を築き、天然の魚が集まりやすい環境を整えてから一斉に捕獲する仕組み。 |
|---|---------------------------------------|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 国内生産量が停滞し輸入量が増加している状況に対し、消費者は国産品の安全性を評価し、価格にかかわらず国産品を重視する傾向にある。	日本の食料需給において、豚肉は輸入依存度が高まっている品目の一つですが、消費者心理としては単純な安さだけを求めているわけではありません。意識調査の結果からは、国産ブランドへの信頼や安全性への期待から、輸入品との価格差があっても国産品を選択する消費者が多いことが、供給バランスに影響を与えていることが分かります。
問2	答え 4 養殖業	1970年代以降、世界的な排他的経済水域の設定や水産資源の減少により、遠洋漁業や沖合漁業の漁獲量は大幅に減少しました。これに対し、人工的ないけすや施設で稚魚から成魚まで管理して育てる形態は、自然環境の変化や国際的な規制の影響を比較的受けにくいいため、統計上も安定した生産量を保っています。
問3	答え 2 広大な土地を活用した大規模な機械化農業が行われている	北海道は新潟県に次ぐ全国有数の米の生産地です。かつては寒冷な気候のため稲作には不向きとされてきましたが、品種改良の進歩や、広大な平野部を活かした機械による大規模な経営が行われるようになったことで、高い収穫量を実現しています。
問4	答え 4 高い技術力を持つ中小規模の工場が数多く集まっている。	阪神工業地帯、特に東大阪市などは「中小企業のまち」として知られ、高度な技術を持つ小さな工場が互いに協力し合いながら、機械部品や日用品など多様な製品を生産しています。これは、大規模な企業城下町を形成することが多い中京工業地帯などと比較した際の大きな特色です。
問5	答え 2 特定の国や地域に産出が偏っているため、産出国の政治情勢や輸出政策の変化によって、供給不足や価格高騰が起こりやすい。	レアメタルは中国や南アフリカ、ロシアなど、産出国が特定の地域に偏っている（偏在性が高い）ことが多い資源です。そのため、産出国が自国の利益や外交を優先して輸出を制限したり、現地の情勢が不安定になったりすることで、世界の供給が左右されるリスクを抱えています。日本のような輸入依存度の高い国では、供給源の多角化や備蓄、代替素材の開発、リサイクル（都市鉱山の活用）が重要な課題となっています。
問6	答え 4 養殖業	海や池などの限定された区画において、餌を与えながら出荷まで人の手で育てる形態を指します。卵から稚魚まで育てた後に海へ放流し、成長してから再び捕獲する「栽培漁業」とは、出荷まで継続して管理し続けるという点で区別されます。近年ではブリやマダイ、クロマグロなどの魚種で盛んに行われています。
問7	答え 4 日本周辺の海域に存在が確認されており、実用化によって日本のエネルギー自給率を高めることが期待されている。	メタンハイドレートは、天然ガスの主成分であるメタンと水が低温・高圧の状態で結晶化したもので、日本周辺の海域に広く分布しています。自国でまかなえるエネルギーが少ない日本にとって、この資源の活用はエネルギー自給率を改善するための重要な鍵とされています。アメリカや中国、オーストラリアなどは日本よりも自給率が高く、日本はこれらの国々との格差を埋めるために国内資源の開発を急いでいます。
問8	答え 4 外国人入国者数が急増した結果、2015年頃には日本人の出国者数を上回る状況となった。	2012年頃からの円安傾向やビザ発給要件の緩和、観光立国に向けた政府の取り組みなどにより、日本を訪れる外国人は急増しました。統計資料に基づく、長期的に1500万人前後で安定していた日本人の出国者数を、2015年には外国人入国者数が大きく上回るという歴史的な逆転現象が起きています。なお、2008年以降、世界金融危機（リーマン・ショック）や東日本大震災の影響で一時的に入国者数が減少した年もあるため、「毎年増加し続けている」という記述は誤りです。
問9	答え 4 太平洋ベルト	日本の工業出荷額の大部分を占めるこの地帯は、東京、名古屋、大阪といった巨大な消費地を結ぶ位置にあります。高度経済成長期に、海外からの原材料輸入や製品の輸出に便利な臨海部を中心に、重化学工業が大きく発展したことで形成されました。
問10	答え 4 近隣のアジアの国や地域と国際線で結ばれ、そこからの入国者が全国平均より高い割合を示している。	地方空港の国際化においては、その地域の地理的特性が強く反映されます。鹿児島空港や熊本空港の場合、ソウル、大邱、台北、高雄、香港といったアジアの主要都市と直接結ばれているため、全国平均（韓国22.1%、香港6.7%など）を大きく上回る割合で近隣諸国からの入国者が集まります。これは日本の諸地域が、国単位の平均とは異なる独自の国際的なネットワークを形成している具体例といえます。
問11	答え 2 労働力の中心となる世代が少なく、高齢化が進んでいる。	生産年齢人口の割合が51.8%と全国平均を大きく下回っていることは、相対的に65歳以上の「老年人口」の割合が高いことを示唆しています。これは多くの地方自治体が直面している課題であり、若者の都市部への流出によって、地域経済や福祉を支える労働力が不足し、社会保障の維持が困難になるなどの問題を引き起こしています。
問12	答え 1 人工的に育てた稚魚を一度自然の海へ放流し、成長したものを再び漁獲する仕組み。	養殖漁業が最後まで人間が管理するのに対し、栽培漁業は「卵から稚魚になるまでの最も外敵に襲われやすい時期」だけを人間の手で守り、その後は自然の海へ放すという違いがあります。これらは共に水産資源を維持・増大させるための取り組みですが、成長過程をどこまで管理するかという点が異なります。